

燃料電池世界最小級

エネルギー関連機器開発の水素エネルギー研究所(長野県茅野市、須田精二郎社長)は、ノートパソコン向けに世界最小クラスの燃料電池を開発した。一般的な電源であるリチウムイオン電池と同程度の容量にすれば、常温での駆動時間を現在の二倍に延ばすことができる。海外メーカーに技術移転し、実用化を目指す。

大学発VBの水素エネルギー研

燃料電池は水素と酸素を化学反応させ発電する仕組み。今回開発した電池は基本構造の最小単位が縦三枚、横二枚、厚さ一ミリで、重さが五グラム。ノートパソコンに二十五ワットの出力を出す場合、五十枚重ねる。使用する際に出す装置が必要なうえは燃料供給装置などの付帯機器が必要となる。

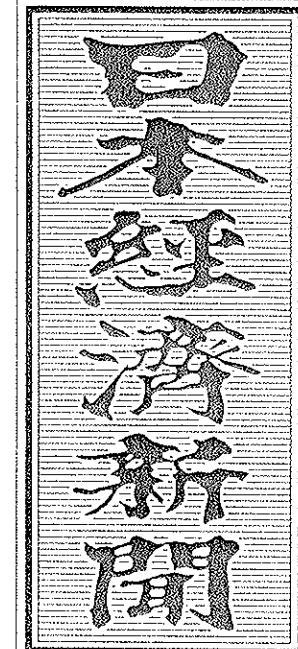
水素エネルギー研は工学院大学教授でもある須田社長が一九八六年に設立した大学発ベンチャーの草分け。水素吸蔵合金や水素エネルギーの活用技術の研究開発を得意とする。

パソコン駆動時間2倍に

池の小型軽量化・長寿命化を巡る開発競争は激しく、カシオ計算機などはメタノールを燃料にするタイプの実用化を進めている。

水素エネルギー研は水素化ホウ素ナトリウムをアルカリ溶液に溶かした燃料を使う。水素を取り扱う。燃料供給装置などの付帯機器が必要となる。

デジタル携帯機器の利用可能時間を決める電池電極に白金などの貴金属を使わないと、燃料



夕刊
9月7日

火曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 〒100-8066 (03)3270-0251
東京都千代田区大手町1-9-5
大阪本社 〒540-8588 (06)6943-7111
大阪市中央区大手前1-1-1
名古屋支社 〒460-8366 (052)243-3311
名古屋市中区栄4-16-33
西部支社 〒812-8666 (092)473-3300
福岡市博多区博多駅東2-16-1